農福連携 2025何ができるか？

三年前の実践と思考から考える

精神疾患当事者として、農業と福祉でのリカバリーと経済的な収入を結び付け、なおかつ農業を支える一員としての活躍が見込める「農福（ノウフク）連携」。天地成行は２０２２年の秋から大いに体験したり紙面にしたり、島根県の病院や学者さんらと親交を温めた。これについてまとめてみることにし、２０２５年になにができそうか考えてみた。「農福連携第一回ルポ」に大変多くの当事者・福祉や農業または農福連携関係者さんや学者さん、報道関係者さんから好意的な意見をいただいたので、その全文の紹介から、これまでに書き溜めてきたもののすべてを列記しておく。紙面などについても同じである。

【体験ルポへの感想】

テンチさん、良いと思います！　文面も分かりやすく、脳内会話をはじめとして、経験者にとっては馴染みのある、そうでない人には新鮮に映って興味をもってもらえるのではないでしょうか。農福連携記事の定石にもなり得るかと　（全農・Y）

きれいなデジタル紙面から、なぜか土のにおいがするようで不思議な感覚を覚えました。おいしそうなお芋でしたね。ほっこりする紙面でした（^-^*）　（日本農業新聞・S）

いきいき、ドキドキ、わくわくが伝わるリポートだね。あまり「農福連携」と力まず、こうしたリアルな実感を伝えるのはいいね。（日本農業新聞・O）

こんばんは。今、お風呂につかりながらスマホで読ました。体験の臨場感が伝わってきました。この体験が毎日のように続くと、どんな変化があるのかと、楽しみになりました。新しい執筆活動、応援していますよ。（くるとん・藤井）

芋の体験記、読みました。農福連携についての当事者の皆さんからの発信が少ないので、出版社の社長の方と同じく、天地さんの農作業体験の積み重ねによる変化の記録は、まとめてみる価値があるのではないでしょうか。また、一緒に体験する方々の中には、なかなか感想をアウトプットするのが苦手な方も多いと思うので、そういう方々の感想も拾えると、同じ農作業でも、障害の違いで、捉え方や影響が違うことを示せて、それもそれで貴重な情報になる気がします。（千葉大学園芸学部・吉田行郷教授）

【当事者として】鹿児島市・ラグーナ出版編集部から

●全体的な感想

芋掘りとライ麦パンを作るための粉ひき。農業をやっていない限り、日常の生活では体験できないことを記者がユーモアを交えながら、実況している。その描写が細やかで読み手にとって分かりやすい。一つ一つのシーンが目に浮かぶようだ。

●印象的だったところ、よかったところ

記者自身の統合失調症という特徴を「頭の中の私の三人の会話」（Ａ＝平常心のまとめ役、Ｂ＝鬱的な役、Ｃ＝そうの役）として、心の中の言葉を会話形式で表現している箇所はコミカルで面白い。芋を掘り出すところの、土の柔らかさの感触やつるが切れないように、それを行う気遣い。その後のタバコの一服まで、一連の様子が丁寧かつ簡潔にまとめられていて、読み手のイメージをくすぐる。ライ麦パンを作るための臼で粉をひく作業や、ふかした芋を食べる様子も然り。

帰りの電車の時間が来て、お開き。二時間半ほどの作業だったが、記者にとって濃密な時間だったのだろう。文末の俳句も素朴な感じで好感が持てる。

【着想メモ】

冊子化する際にユニバーサル農園の癒し効果とし

ての農福連携
↓タイトルと企画趣旨
「癒し効果としての農福連携」にフォーカス

【過去のフェイスブック（FB）投稿　エディター　としての天地成行もよろしくね】

現在、IPS（個別職業紹介とサポート）という精神科での職業開発を行っているわたし。ストレングス（強み）に編集力が挙げられた。15年の新聞社勤務、退院後に取り組んだ3年のリカバリー活動でのミニコミ誌「みんつど」づくり。特に今は昔の編集力に今できることしかできないわけではある。そしてとかく記事を書く、リライトすることばかり人から評価を受けてきた。しかし、評価するのは一番は、「形」にしてきたからではないだろうか？　なぜそこを表現してくれる人はいなかったか？　紙面構成、組版、見出し、レイアウト。そういう文言で評価する人とはついぞ出会わなかった。おそらくその世界で食べた人でないとそういう言葉自体が出て来ないのだろうなあと述懐。そうするとそこはわたしのブルーオーシャンかもしれん。そして件のIPSでは「天地さんはピアサポートもいいけど、起業が親和性あるかもー」と言われている。「きぎょー？　なーもわからんしー、借金からはじめたくないしー。でも組織ではたらくより自分には合っているかもー」みたいに考えていた。そこでFB上でパーソナルアシスタントという方が身近に。お手伝いである。

当事者の生声
農福連携寄稿

心ほぐす小さな成功体験

「農福連携」を知ってますか？　障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組み（農水省ホームページ）。この言葉が身近にはなってきた。だが、肝心の当事者たちの生の声を紙面でみたことがあるだろうか？　私・天地成行（てんちなりゆき）は、精神障害の一つ・統合失調症の元新聞記者という経歴からこの「農福連携を表現する」ということにチャレンジしてみて、一障害当事者記者として、この農福連携に現場で体験して記事や紙面で表現していきたいと思う。リカバリー活動で行っている俳句創作も記事の締めに取り入れながら……。では、論より証拠。初回は十月二十一日の山口市阿東徳佐でのサツマイモ掘り体験。

普段なら気にしすぎるほど手元にないと困る財布も携帯もほっぽり出して芋掘りに熱中した。阿東つばめ農園の安渓遊地さんの後に続き、畑へ入る。足下が気になる。柔らかいからだろうか。足で感じる感覚が少し気分をやわらげる。安定剤を飲んで気分がふんわりしてくる感覚が足に来るような感じである。

さて、野菜畑のゴマが植えてある（教えていただいた。素人目には全くわからないが）中にサツマイモ。サツマイモは周りに畝があり、黒いマルチがかかるその下に「いらっしゃる」らしい。ところどころ、もっこりと膨らみがある。「このふくらみが収穫の証拠だよー。ここのマルチを破って、サツマイモを掘るんだよー」優しい口調で安渓さん。

（ここで統合失調症的頭の中の私の三人の会話）

天地C「よし！　サツマイモ掘るどー。やったるどー。ふんがふんが（鼻息）」

天地A「Cさん、あなた基本引きこもりだから腰や肩には気をつけなさいよ」

天地B「そうですよー。気をつけてね。あなたお調子ものだからねー」

天地C「うるさい。仕切り屋の我が分身のAと日和見のBよ。この自然を前にしてやるしかなかろうが。どすこーい！」

天地A、B「コイツ……やる気だ。しかしどれほどもつか……」

さて思考と別の現実。

先生にならい、屋久島で習ったという、大地の神に農作業の安全のお祈りをしてから収穫をさせてもらう。

サツマイモ掘り編（山口市阿東徳佐）

土に「遊ばせて」もらう喜び

先ほど足で感じた柔らかさ。手で触るとさらに五感に働きかける。土は柔らかい。手袋をしていてもはっきり伝わる感触。つるをつたって、一つに照準を絞り周りの土を掘りだす。つるを強引に引っ張ればつるが切れる。ここは慎重に作業だ。

それにしても、一つのつるから十個も取るのに何十分もかかる。腰がつらい。息が切れる。でも土を無心で掘り続ける。少しずつ少しずつ顔をのぞかせてくるサツマイモは、「もうすぐだよ。そら、もう少しだよ。わたしは美味しいよ。この土の中でじっくり育ったんだからね。わたしを収穫して食べて元気になってごらん」と語り掛けてくれているようだ。二十分くらいかけて、十個の芋が一つのつるから獲れた。

「あー、できた。休もう」

シュボッ、すー、ぷはー。たばこがうまい。自然豊かな空気で作業後の一服と言ったら！

◇　◇　◇

「疲れたでしょう。では一服した後は、家の中でライ麦パンを作るための工程の粉ひきをしましょう」三十代の息子の大慧（だいえ）さんと二人で、アニメの話や音楽の話、阿東つばめ農園の話をしながら、臼で粉をひく。これも数十分体験。

「ふかしたもの食べてみてくださあい」遊地さんが作業と同時に、薪ストーブであらかた蒸してあった芋をいただく。作業後の身体に甘味が心地よい。そして、のどが渇けばシソのジュースがさらに優しく喉を通過する。こりゃ、たまりませんな。

十四時半くらいから始まった、即席で頼んだ農福連携体験も電車の時間がきている。遊地さんはふざけているか、大真面目か……「天地さん、まだまだ農業はこれからだよー」「いや、先生、電車の時間がもう来てますし、私はぎりぎりのスケジュールで動くのは特性上無理なんですよ」と特性のこともきちんと伝えて理解していただいて、十七時に帰途へ。簡素な駅舎で一人たたずみ、特急が来る三十分ほどを一句捻る時間に充てる。

芋掘りは宝さがしの思い出よ　成行

（農福連携当事者記者・天地成行）

ご協力・阿東つばめ農園（安渓遊地・大慧さん）

（山口市阿東徳佐の阿東つばめ農園で実践したことを紙面化）

ユニバーサル農園のイメージ図（表：千葉大学園芸学部の吉田行郷教授提供）

○ ユニバーサル農園とは、身近で農業に参画できる市民農園（農業体験農園）の活用を通じて、多世代・多属性の交流・参加の多様な場を農業を通じて生み出すとともに、生きがいづくりや精神的な健康の確保等の様々な社会的課題の解決にも資することを目的とするもの。
○ ユニバーサル農園を通じて、多世代・多属性の参加者が、農業の持つ様々な機能に触れることで、その価値が広く認知されるとともに、将来の農業現場での雇用・就労を見据えた農業体験等の提供を通じた農福連携の推進や、農園の導入促進による農地の利用拡大も期待される。

ユニバーサル農園の開設イメージ

多様な開設者
NPO法人
社会福祉法人
民間事業者
農業者
都道府県
市町村 等

開設

市民農園（農業体験農園）の形態で開設

見込まれる効果
※農福連携対策で支援する場合は職業訓練的な農業体験の提供が必須

社会参加を促す効果（職業訓練、協同体験の場）
就農へのチャレンジに向けた技術を習得する場（職業訓練的農業体験の場）や、農作物の栽培や販売、それらを通じた協同体験を通じ、ひきこもりの方など働きづらさを抱える若年・現役世代の社会参加の場を提供

予防・リハビリの効果（生きがいづくり）
農作物の栽培や販売、利用者同士の交流による生きがいづくり等を通じ、介護予防や、高齢者、障がい者等の健康増進・社会参加を図るとともに、高齢者、障がい者等へのケアのためにリハビリ等の場を提供

癒しを提供する効果（精神的健康の確保）
農業の持つ癒しの効果を通じ、精神的不調により休職している社員等のリワークなど、企業の社員等の精神的健康の確保を図る機能を提供

学びを促す効果（農業体験の場）
学生ボランティア等の参画や学校からの協力を得て、子どもが農業を体験的に学ぶ場の提供や、生産された農産物の子ども食堂等への提供を通じた食育の機会を提供

幅広い参加・農地の利用

多様な参加者
高齢者
障がい者
困難を抱える若年・現役世代
学生ボランティア
子ども

●ユニバーサル農園の募集にあたっての障害者等を優先した選考
●農園の区画の一部に車椅子等が通行可能な園路の整備、障害者の利用に対応した区画等の設置
●障害者等の利用に合わせた必要な措置が講じられた施設の整備
●余剰農産物の利用者による個人・共同販売、フードバンク等への提供
等を行うことが可能

そか、編集のパーソナルアシスタントってかんがえたことなかった。家族新聞や施設の広報や自治会の広報でＡ４でペライチならいくらでも作れるなあ。そねいなことを考え、もしかしたら起業して、農福連携の取材と冊子化へ向けて動くのをメーンに、暇なときとか取材できないときは、これが受注できたらいいのではなかろうか？　そしてそのときの宣伝材料（ポートフォリオ）に「みんつど」が使えるし、普及もできるなあ。冊子作ってよかったかもー。安渓先生の先見だったか、お導きがここに結実！？とまたもやヘンテコ・みん変的考え。中身もヘンテコなら、今後の私の人生も寝るたびにころころうつろぐ。しかしそれこそ成り行き人生の真骨頂。基本ベクトルがむっちゃぶれてるようには個人的には感じないし、なにより考えることが楽しい最近。

【島根・西川病院でのＩＰＳ（個別就労支援とサポート）での話し合い】

ピアサポートとしての役割がコロナ禍でできそうになかったため、浜田市に転居して、「起業」をサポートしていただく、というＩＰＳを受けていた２０２２年。

Ａ４の紙で三ページここで掲載してある（前のページとこのページ）。

（島根県浜田市の西川病院での話し合いで使った資料）

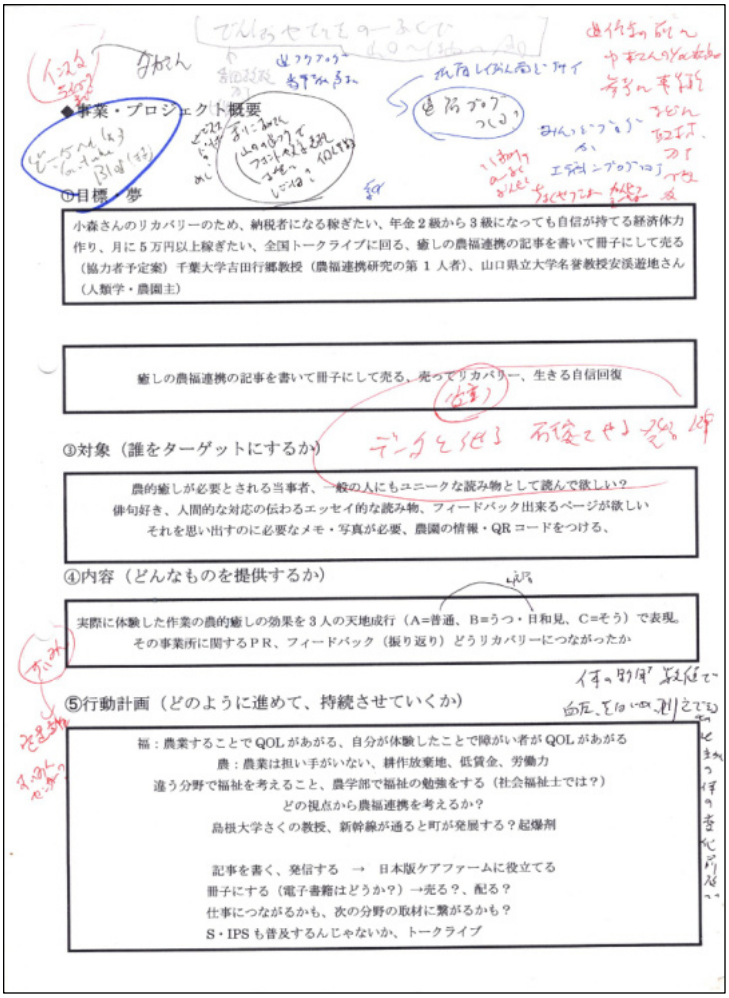
第１回　小森さんとの面談

令和４年10月19日

○目標の仕事
・当事者が発信する農福連携の記者
→農福連携の記事＋俳句、四季、日本文化
・みんつどのような記事を書きたい（だれでも読んで分かるような）
・人と人をつなげる仕事、プロデュースする仕事
・現場を伝えたい
・Identity＝障害、ではなく Identity の要素の一つに障がい（他の要素と同列）

○目標を達成する為にはどこからアタックするか？
島根県庁、島根県障がい者就労事業振興センター、中国四国農政局、日本財団、特定地域づくり事業協同組合？

○今後
・アタックするにしてもこちらがやりたいことをもう少し具体化しないと理解してもらいにくいかも？
・まずは島根県障がい者就労事業振興センターからか？



◆事業・プロジェクト概要

⑤目標・夢

小森さんのリカバリーのため、納税者になる稼ぎたい、年金２級から３級になっても自信が持てる経済体力作り、月に５万円以上稼ぎたい、全国トークライブに回る、癒しの農福連携の記事を書いて冊子にして売る（協力者予定案）千葉大学吉田行郷教授（農福連携研究の第１人者）、山口県立大学名誉教授安渓遊地さん（人類学・農園主）

癒しの農福連携の記事を書いて冊子にして売る、売ってリカバリー、生きる自信回復

③対象（誰をターゲットにするか）

農的癒しが必要とされる当事者、一般の人にもユニークな読み物として読んで欲しい？
俳句好き、人間的な対応の伝わるエッセイ的な読み物、フィードバック出来るページが欲しい
それを思い出すのに必要なメモ・写真が必要、農園の情報・QRコードをつける、

④内容（どんなものを提供するか）

実際に体験した作業の農的癒しの効果を３人の天地成行（A=普通、B=うつ・日和見、C=そう）で表現。
その事業所に関するＰＲ、フィードバック（振り返り）どうリカバリーにつながったか

⑤行動計画（どのように進めて、持続させていくか）

福：農業することでQOLがあがる、自分が体験したことで障がい者がQOLがあがる
農：農業は担い手がいない、耕作放棄地、低賃金、労働力
違う分野で福祉を考えること、農学部で福祉の勉強をする（社会福祉士では？）
どの視点から農福連携を考えるか？
島根大学さくの教授、新幹線が通ると町が発展する？起爆剤

記事を書く、発信する　→　日本版ケアファームに役立てる
冊子にする（電子書籍はどうか？）→売る？、配る？
仕事につながるかも、次の分野の取材に繋がるかも？
S・IPSも普及するんじゃないか、トークライブ

その主題に千葉大の吉田行郷教授の提案を受けた「農福連携のルポ記事」を冊子化して収益を得るという考えに至る。その評価を受けたのが、阿東つばめ農園でのデモ紙面だ（前のページ）。島根県の西部であれば、支援するＩＰＳ（この病院ではＳ・ＩＰＳという）の職員が車で浜田市内から東は江津エリア、西は益田エリアまで対応するという医院長の了解を得た。計画は断念したが、西部農林事務所やＪＡしまねなどに受け入れてくれる農家や経営体を調べにいこうと支援員と話していた。

その後で、いろいろあり山口県に戻り二度目の精神科入院（二ヶ月弱）となった。

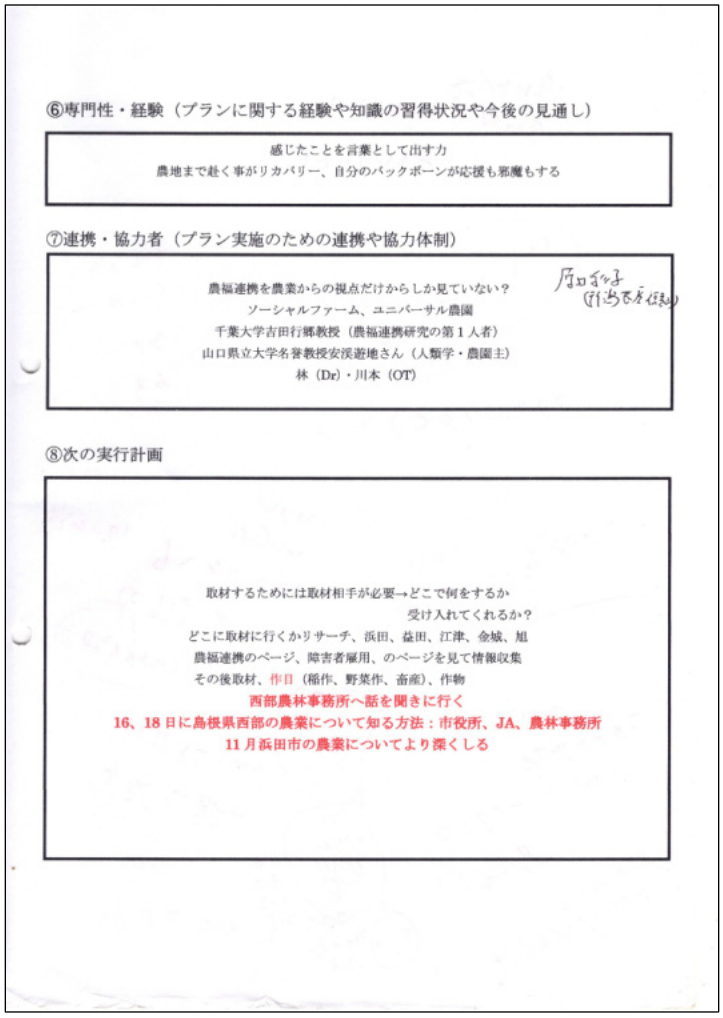
【病院食で雑誌に意見（脳内会話方式）】

最後は、退院して早速鹿児島市のラグーナ出版に「病院食に有機玄米を」と題した、脳内会話のあり方委員会を送り６月号の掲載に至った。ここでも入院中の食べ物が排泄だけでなく、メンタルにおける重要性があるのではないか、と思わせるに至ったわけである。

その後、家で料理でココロをととのえるということもはじめて、「精神栄養学」という親和性が高いワードの研究分野があることも知ることになる。

【まとめと課題】

今後の天地成行の農福に関する活動の萌芽がみえてくるのかもしれない、と思った。周南市、もしくは山口県で実践しようと試みたことはあったのでメモとして。萩市の「のんきな農場」を運営する社会福祉法人E・G・Fを複数人から体験の場とされては？　という指摘があるも、周南市から萩市に公共交通では、とても移動が難しい。車でないとと判断し、連絡しなかった。ここは関わってくれそうな仲介の方が手を挙げてはくれていたので残念。周南市では鹿野の農場に連絡してみるもNG。戸田にあるカン喜は、A型で農作業をしていて、電話で聞いたらJGAP認証の作物づくりということで本格的だと感じた。ただコロナ禍で外出ができずに御縁が当時は得られず。なお有力かもしれない。市内のB型作業所では、請負や畑をもつ所は多数あったり、畑の作物を併設の飲食の場で提供するなどあって関わり合い次第の様子。さてさて体験記事を量産するためには、天地成行個人の活動としてするにはハードルは高い。信頼性を勝ち取り、話し合いができる地域における福祉の仲介する専門職が必要だろう。さらに一言付け加えるなら、このような活動は施設に所属しない形につき、多様性を周南地域で認知できるかにもよるといえる。ＩＰＳを求め、他県に病院を移す患者がここにいたのだから。こころとからだと御縁を大切に、天地成行でした。



⑥専門性・経験（プランに関する経験や知識の習得状況や今後の見通し）

感じたことを言葉として出す力
農地まで赴く事がリカバリー、自分のバックボーンが応援も邪魔もする

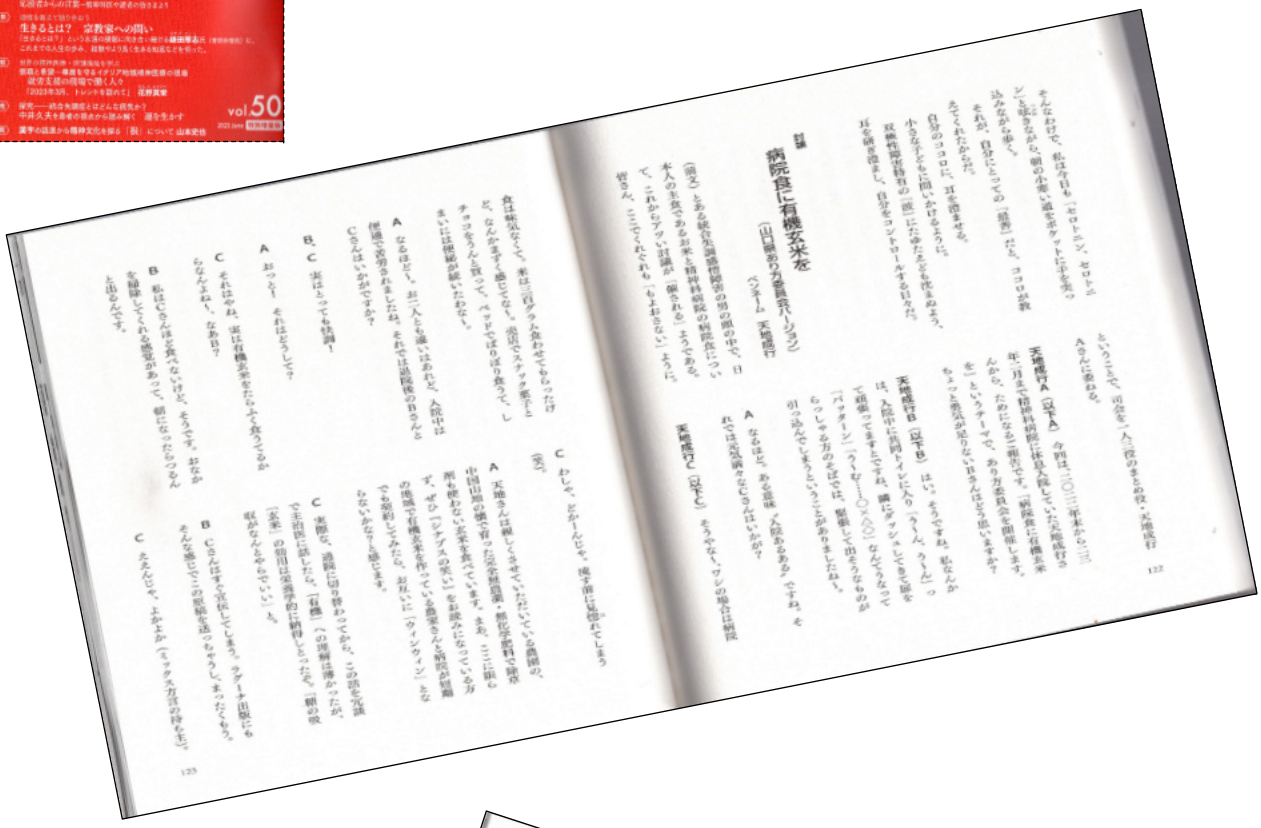
⑦連携・協力者（プラン実施のための連携や協力体制）

農福連携を農業からの視点だけからしか見ていない？
ソーシャルファーム、ユニバーサル農園
千葉大学吉田行郷教授（農福連携研究の第１人者）
山口県立大学名誉教授安渓遊地さん（人類学・農園主）
林（Dr）・川本（OT）

⑧次の実行計画

取材するためには取材相手が必要→どこで何をするか
受け入れてくれるか？
どこに取材に行くかリサーチ、浜田、益田、江津、金城、旭
農福連携のページ、障害者雇用、のページを見て情報収集
その後取材、作目（稲作、野菜作、畜産）、作物
西部農林事務所へ話を聞きに行く
16、18日に島根県西部の農業について知る方法：市役所、JA、農林事務所
11月浜田市の農業についてより深くしる

鹿児島市・ラグーナ出版『シナプスの笑い』脳内会話の「病院食に有機玄米を」掲載（2023・6月号）



対論　病院食に有機玄米を

（山口県萩市の方委員会パーソナル）

ペンネーム　天地成行

（前文）とある統合生涯教育研究所の明の間の中で、日本人の主食であるお米と精神科病院の病院食について、これからブッシュ対論が（開される）ようである。皆さん、ここでくれぐれも「もよおさない」ように。

そんなわけで、私は今日も「セロトニン、セロトニン」と唱えながら、朝の小雨に道をポケットに手を突っ込みながら歩く。

それが、自分にとっての「瞑想」だ。ココロが教えてくれたからだ。

自分のココロに、耳を澄ませる。

小さな子どもに問いかけるように。

双曲性線形特有の「匂」にたゆたうと代を忘れよう。

耳を研ぎ澄まし、自分をコントロールする日々だ。

ということで、司会を「人」役のきとの役・天地成行さんに委ねる。

天地成行A（以下A）　今回は二〇二二年末から二三年二月まで精神科病院に休息入院していた天地成行さんから、たのになる二冊代です。「病院食に有機玄米を」というテーマで、ある方委員会を開催します。ちょっと意気が足りないBさんはどう思いますか？

天地成行B（以下B）　はい。そうですね。私なんかは、入院中に何回トイレに入り「うーん、うーん」って頑張ってますとですね、隣にオジジとしてきて座を「バックチャー」（ウ〜ゼ〜〜〜〜〜〜〜〜）などどうなってらっしゃる方のそばでは、緊張して出そうなものが引っ込んでしまうということがありましたね。

A　なるほど。ある意味「人間ならあるあるですね、それでは気満々なCさんはいかが？

天地成行C（以下C）　そうやな、ワシの場合は病院食は味気なくて、まずは三百グラム食わせてからっぱどと、なんかまず感じてない。出汁でスナック菓子とチョコをうんと買って、ベッドでは10ほど食べて、しまいには便秘が続いたわな。

A　なるほど。お二人とも強いはあれど、入院中は便通に苦労されましたね。それでは退院後のBさんとCさんはいかがですか？

B、C　実はとっても快調！

A　おっと！　それはどうして？

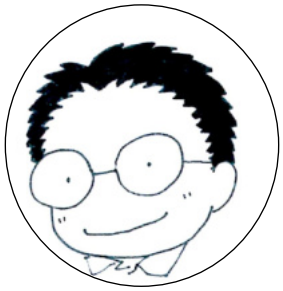
C　それはのう、実は有機玄米をたらふく食べてるからなんよね、なあB？

B　私はCさんほど食べないけど、そうです、おなかを綺麗にしてくれる感覚があって、朝になったらうんと出るんです。

C　わしゃ、どかーんじゃ、後ろ前には出てしまう（笑）。

A　天地さんは新しくさせていただいている農園の、中国山脈の麓で育った完全無農薬・無化学肥料で栽培、無も使わない玄米を食べています。まず、ここに個ず、ぜひ「シナプスの笑い」をお読みになっている方の地域で有機玄米を作っている農家さんと病院が協ならないかなーと思います。

C　実際で、過疎に切り替わってから、この話を元議で主治医に話したら、「有機」への消耗は薄かったが、「玄米」の羽川玄米的に納得しとったな。「朝の吸収がなんちゃらでいい」も。

B　Cさんはすぐ宣伝としまう。ラグーナ出版にもそんな感じでこの原稿を通ってもらうしまったくもう。

C　さんじゃ、よかよか（ネックス方言の神々を）。